

## 2007年度 第1回 協会賞審査委員会議事要録

日 時：2007年9月7日（金）12：30～13：15

場 所：立教大学 12号館第3会議室

出席者：金子昌嗣（早稲田大学）、三瓶良男（文教大学）、木村英照（駒澤大学）、  
上田裕保（同志社大学）、栗山義久（南山大学）、石黒敦子（慶應義塾大学）、  
中村順治（関西学院大学）、東條文規（四国学院大学）  
荒木康裕（中央大学・会長校）、渡来達也（中央大学・会長校事務局）

配布資料：

- （1）協会賞審査委員会名簿
- （2）2006年度審査協会賞一覧
- （3）協会授与規程

協会賞審査委員会の第1回目であることから、会長校の荒木氏を議長とし、委員長の選出にあたっては、会長校の荒木氏より早稲田大学の金子氏にお願いしたい旨の提案があり、意義なく了承された。審議に先立ち、各委員から簡単な自己紹介が行われた。議長を金子委員長に交代し、以下の議事が審議された。

議 題

### （1）委員の選出方法について

委員の選出方法について、時間の制約があることから本日は会議で結論を出すというより、委員から忌憚のない意見を出して頂くフリートーキングの形式となった。次回の会議で委員選出についての意見集約を行い、東西合同役員会に報告することとなった。

（主な意見）

- ・委員の選出方法として、適任者に個々に依頼するケースと、役員校に依頼するケースがあり、他の委員会では後者の選出方法のケースが多い。但し会長校などの役員校では、委員が重なってしまい負担が大きくなってしまう。
- ・過去の経緯として、委員は各地区毎で選出するのではなく、東西各地区全体からそれぞれ4名ずつの委員で構成されている。
- ・協会賞審査委員会は会議の回数が少なく、総会や東西合同役員会に合わせて開催するので、その開催地区から選出する方が委員も参加しやすいのではないか。
- ・委員の方が費用の面で遠方の出張が難しいようであれば、上限を設け距離に応じて旅費を協会予算から補助できないかを役員会で検討したい。

- ・図書館の研修会に参加するなどの経験を積んでいないと、協会賞の審査は難しい。
- ・委員が新人ばかりでは、審査が難しくなる。
- ・委員の選出については、総会等の出席者名簿も参考にしてはどうか。
- ・委員の選出枠として、役員校としての任期を終えた大学、過去に協会賞の表彰を受けた方、役員校など過去に担当されていない大学を設けてはどうか。
- ・情報処理系に強い方を委員の選出枠として設けてはどうか。
- ・委員の構成は、世代、東西地区のバランスが取れた方がよい。
- ・研究助成委員会など他の委員会が、次期委員について部会長校任期の後に担当するなどシステムの決めているのであればその方法に準じ、その他過去に協会賞の表彰を受けた方、会長校からの推薦などを加味してはどうか。

## (2) 次回日程について

協会賞の応募が2007年10月から2008年1月末までとなり、例年通り東西合同役員会(次回2008年3月7日)の前日に開催するとなると、およそ1ヶ月の限られた期間で審査結果をまとめなければならないことが懸念されたが、特に支障はないということで前日に開催することで了承された。

開催日時：2008年3月6日(木) 13:00 ~ 17:00

場 所：中央大学駿河台記念館(アルカディア私学会館から変更)

以 上